

東北ハイテク研究会セミナー

岩手県におけるグリーンな栽培体系への転換サポート事業の展開

令和7年2月13日（木）
岩手県農林水産部
農業普及技術課

内容

- 1 本県における事業推進の経緯**
- 2 取組状況**
- 3 課題と今後の展望**

本県におけるグリスポ事業推進の経緯

- ・岩手県では、みどりの食料システム法に基づき、令和5年3月に「岩手県環境負荷低減事業活動の促進に関する基本的な計画（令和5年度～8年度）」を全市町村と共同で策定。

【基本計画で定める目標（環境負荷の低減に関する目標）】

指標	基準 (R3)	目標 (R8)
認定農林漁業者数(みどり認定)	0	3,200
有機農業に取り組む農家数	79	100
国際水準GAP取組産地割合	0	40

本県におけるグリスポ事業推進の経緯

- ・基本計画の推進にあたり、令和5年9月に、農業者組織、農業団体、消費者団体等を構成員とする「いわてグリーン農業推進会議」を設置。
- ・普及センターでは、県重点プロジェクトとして、環境保全型農業の推進を課題化。
- ・環境負荷低減技術の普及に向け、国庫事業等を活用した現地実証を実施。

⇒ **グリーンな栽培体系への転換サポート事業**
(グリスポ事業)

本県におけるグリサポ事業推進の経緯

- ・グリサポ事業：「環境にやさしい栽培技術」と「省力化に資する先端技術等」を組み合わせた「グリーンな栽培体系」への転換を推進するため、産地に適した技術の検証、定着を支援。
- ・本県の実組件数は、令和5年度の3件から**令和6年度は18件に増加**。

取組状況

推進する技術				品目	実証期間	担当	取組地域
【農薬・肥料・温室効果ガス低減】		【省力化】					
農薬低減 (6)	防虫 ネット	天敵 昆虫	環境モニタリング 遮熱資材	ピーマン トマト等	R6	中部 普及	花巻市 北上市
			捕虫シート 防虫シート	なす	R6-7	一関 普及	一関市
				ミニトマト いちご	R5-7	大船渡 普及	陸前高田市
				トマト	R4-6	農研	盛岡市 北上市
	品種選択	水稻 (銀河のしずく)	農研	北上市			

取組状況

推進する技術 【農薬・肥料・温室効果ガス低減】		【省力化】	品目	実証 期間	担当	取組地域
肥料低減 (6)	堆肥施用	ドローン防除	大豆	R6	宮古 普及	山田町
	指定混合肥料		露地ピーマン		普及 技術課	奥州市 遠野市
	BS資材		りんどう 小菊 きゅうり ピーマン	R6~8	全農 いわて	雫石町 九戸村 紫波町 奥州市 (衣川)
温室効果 ガス削減 (2)	流し込み追肥 (プラスチック被膜 肥料代替)	自動水管理システム ドローン栄養診断	水稻	R6~8	盛岡 普及	紫波町
	生分解性マルチ	点滴かん水	露地ピーマン	R6	久慈 普及	久慈市・洋 野町・野田 村・普代村

取組状況

推進する技術		品目	実証期間	担当	取組地域
【農薬・肥料・温室効果ガス低減】	【省力化】				
農薬低減 (3)	UVカットフィルム	環境モニタリング	R6-7 ※今年度 準備のみ	中部 普及	花巻市 北上市
	赤色LED	散乱光フィルム		遠野 サブ	遠野市
温室効果 ガス削減 (1)	バイオ炭	ロボット除草機 充電式剪定ハサミ		ぶどう りんご	大船渡 普及

①防虫ネットによる農薬低減＋環境モニタリング等による省力化

取組者	中部普及	 
事業期間	令和6年度	
事業実施地域	花巻市・北上市	
対象品目	ピーマン・トマト・ミニトマト	
使用資材 (機材)	<ul style="list-style-type: none">・防虫ネット（資材名：サンサンネットクロスレッド0.8mm）・遮熱資材（資材名：涼感ホワイト#30）・環境モニタリング装置（資材名：ハウスファーモ（Fタイプ））・調査用機器（スマホ接続型サーモカメラ）	
目的	<ul style="list-style-type: none">・防虫ネットによりハウスへの害虫侵入を物理的に遮断する技術の検証・遮熱資材と環境モニタリング装置によるハウス内温度調節及び環境条件把握の省力効果の検証	
取組状況・課題	<ul style="list-style-type: none">・資材活用上の要点(資材の設置時期、設置方法)等が明らかになった。・実証経営体には概ね好評。現地検討会等を通じ、同様の技術導入に関心を示す農家も見られる。・各品目実績検討会において実証結果を周知。	

②天敵昆虫・防虫ネット・防虫シート等による農薬低減＋省力化

取組者	一関普及	  		
事業期間	令和6-7			
事業実施地域	一関市			
対象品目	なす	防虫ネット (サンサンネットクロスレッド0.8mm)	反射式防虫シート (虫フラットシート)	粘着式補虫シート (ラスボス)
使用資材 (機材)	<ul style="list-style-type: none"> ・スワルスキーカブリダニ製剤 ・防虫ネット（資材名：サンサンネットクロスレッド0.8mm） ・反射式防虫シート（資材名：虫フラットシート） ・粘着式捕虫シート（資材名：ホリバー、ラスボスRタイプ） 			
目的	<p>・天敵製剤と化学農薬を組み合わせた防除体系に既に取り組んでいるが、既存の体系ではアザミウマ類等微小害虫の侵入・増殖を抑えきれないことがあるため、施設外部からの侵入防止と施設内部での増殖抑制を組み合わせた防除体系を確立する。</p>			
取組状況・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・アザミウマ類の物理的防除資材では、防虫ネットの効果が高かった。 ・風通しが悪くなるため、導入時には換気改善を図る必要。 ・他資材の効果は判然とせず。 ・地域における効果的な使用方法を改めて検討する必要。 			

③天敵昆虫・防虫ネットによる農薬低減及び防除回数の削減

取組者	大船渡普及		
事業期間	令和5-7年度		
事業実施地域	陸前高田市		
対象品目	ミニトマト・いちご		
使用資材 (機材)	<ul style="list-style-type: none">・オンシツツヤコバチ製剤・ミヤコカブリダニ製剤・チリカブリダニ製剤・防虫ネット（資材名：サンサンネットクロスレッド0.8mm）		
目的	<ul style="list-style-type: none">・防虫ネットの設置及び天敵利用による害虫（コナジラミ類、ハダニ類）防除を行い、化学農薬の散布回数（散布量）を削減する。		
取組状況・課題	<ul style="list-style-type: none">・ミニトマトでは、天敵（オンシツツヤコバチ）の適期放飼により、コナジラミ類の発生数を抑制。・いちごでは、防虫ネットの設置により、アザミウマ類の侵入を抑制。・1回目の天敵放飼を行い、ハダニ類の発生調査を実施中。・ミニトマトでは、対象害虫ではないトマトサビダニ等の発生が多く、天敵に影響のない特別散布剤の選択や対策が必要。		

④ 品種特性を利用した防除回数の削減+省力的畦畔管理

取組者	岩手農研
事業期間	令和4-6年度
事業実施地域	北上市
対象品目	水稻（銀河のしずく）
使用資材 （機材）	・銀河のしずく ・除草剤

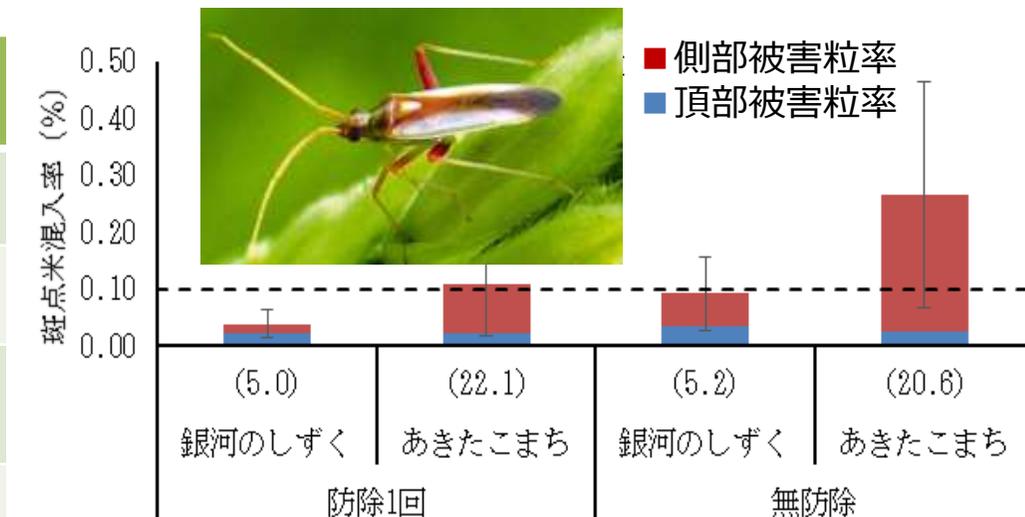


図 「銀河のしずく」と「あきたこまち」の斑点米発生状況

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ粳の発生が少ない「銀河のしずく」において、斑点米カメムシの防除回数を削減した防除体系を検討する。 ・斑点米の原因となるアカスジカスミカメの越冬世代孵化盛期が田植時期に前進化、草刈による耕種的防除が困難であることから、イネ科雑草の出穂を長期間抑制する畦畔管理法を検討する。
取組状況・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「銀河のしずく」における斑点米カメムシ類の防除は、穂揃期1週間後1回で斑点米混入率を0.1%以下に抑えることが可能（研究成果）。 ・ダイロンゾルとザクサ液剤の混用により、2か月間程度イネ科雑草の出穂を抑制。グラスショート液剤とサンダーボルト007の混用との体系処理により、イネ科雑草の出穂を長期間抑制することが可能と考えられる。

⑤ 堆肥の活用による化学肥料の削減とドローンによる省力防除

取組者	宮古普及		
事業期間	令和6年度		
事業実施地域	山田町		
対象品目	大豆		
使用資材 (機材)	・牛ふん堆肥 ・硫安 ・ドローン		
目的	<ul style="list-style-type: none">・地元堆肥センターの牛ふん堆肥を活用し、化学肥料の使用量を低減するとともに、肥料費の削減及び土づくりによる地力向上を図る。・ドローンの活用による防除体系を検証し、病害虫防除の省力化を図る。		
取組状況・課題	<ul style="list-style-type: none">・実証区の莢数、稔実莢数、子実重は慣行区より少ない傾向（慣行比81～87%）。・牛ふん堆肥と硫安を組み合わせた施肥体系により、10aあたり肥料費を5,635円削減。・ドローンの導入により、作業時間をおよそ70%程度削減。		

⑥ 指定混合肥料による化学肥料の低減+省力有機物施用

取組者	普及技術課	
事業期間	令和6年度	
事業実施地域	奥州市・遠野市	
対象品目	露地ピーマン	
使用資材 (機材)	堆肥入り野菜 5 0 0 ※堆肥含有率30% (豚ふん堆肥18%、鶏ふん堆肥8%、鶏ふん燃焼灰4%・ペレット加工)	
目的	・堆肥の施用農家割合の減少とともに地力低下が散見される中、肥料取締法の改正により、化学肥料と堆肥を配合した指定混合肥料の開発が進んでいる。そこで、当該肥料の利用による化学肥料の使用量の低減と併せ、省力的な有機物施用効果を確認する。	
取組状況・課題	・慣行と同等の生育を確認。 ・肥料中のペレット堆肥と化成肥料の散布ムラ（偏り）は無し。 ・他地域においても実証に取り組む意向あり。 ・（課題）現状ではペレット堆肥の価格が高く、肥料費の大幅な低減にはつながりにくい。	

課題と今後の展望

- ・継続課題の着実な実行
- ・マニュアルおよび産地戦略に基づく地域内外への技術普及、
定着
- ・新規課題として、有機農業に関する技術実証にも挑戦予定（R7～ 要望中）